

合唱コンクールを終えて ◇ 一人では叶えられない夢がある 心に響く音楽を ◇

去る10月25日(金)に、全校生徒による合唱コンクールを行いました。各クラスとも、【課題曲】と【自由曲】をそれぞれ1曲を歌い、6人の審査員が審査を行いました。

当日は、文化祭、体育フェスティバルで培った団結力と日頃の努力の成果を十分に発揮して頑張ってくれたと思います。すべての発表が終了し、私もとてもあたたかい気持ちが胸にひろがりました。この余韻は、単なる歌の上手さや声の大きさではなくて、どのクラスもまっすぐに前を向き、一生懸命気持ちを合わせようとしていた姿勢が、心に響く音楽につながり、感動を生んだのだと思っています。誰一人うつむくことなく、素直に取り組んでいました。また、どのパートも大切ですが、ピアノ伴奏のみなさん、素晴らしい演奏でした。きっと夏休みもクラスのために一生懸命に練習をしてくれたのだと思います。指揮者のみなさんも、クラスのためにとても気持ちのこもっている指揮で素晴らしかったです。また、ゲスト審査員として来ていただいた本校の部活動指導員の西口博和先生も、専門的な立場から素晴らしい講評をおっしゃってくれました。今回の合唱コンクールでの心と心のつながりを大切に、その成果をこれからの学校生活にいかしていってほしいと思います。

保護者のみなさまにおかれましては、ご多用の中、ご参観をしていただき誠にありがとうございました。これからも、変わらぬご支援のほど、よろしくお願いいたします。

《1年生の部》金賞 1年1組

【課題曲】『ぼくらの世界』

【自由曲】1年1組『大切なもの』

【自由曲】1年2組『Believe』



《2年生の部》金賞 2年2組

【課題曲】『心の中にきらめいて』

【自由曲】2年1組『Tomorrow』

【自由曲】2年2組『変わらないもの』



《3年生の部》金賞 3年1組

【課題曲】『はばたこう明日へ』

【自由曲】3年1組『COSMOS』

【自由曲】3年2組『時を越えて』



檀原市薬物乱用防止教室 ◆『薬物！ダメ！ぜったいに！』◆

去る10月8日(火)に、檀原市万葉ホールにて、ライオンズクラブ主催による『薬物乱用防止教室』が開催されました。対象となったのは、主に檀原市高市郡の中学2年生の生徒達です。

まず、第1部は、弁護士の諸橋仁智さんのご講演でした。諸橋さんは、若い頃に薬物中毒の経験があり、そこから見事に立ち直って今の弁護士となりました。諸橋さんの壮絶な体験談から、薬物の恐ろしさに関わる多くの具体的な事例と教訓を、子ども達もきっと学んでくれたことと思います。実体験だからこそ説得力があり感じられるリアリティがありました。



続いて第2部は、吉本興業の「あいちゃん」こと酒井藍さんと座員の方々による『ミニ新喜劇』でした。『ミニ新喜劇』をとっても楽しく演じていただきましたが、そのストーリーの中には、薬物の誘惑に負けない知識と心を培えるような内容が盛り込まれていました。『薬物！ダメ！ぜったいに！』という、幾度となく台詞の中にでてきたフレーズは、きっと子ども達の心に刻まれたことと思います。



子ども達が成人したときも、この日にみんなで過ごした時間は、忘れられない思い出になることと思います。そして、また、「愛する自分を大切に！薬物は絶対にダメ！」という教示を、きっとこれからの学校生活、社会生活に生かしてくれることと思います。今回の薬物乱用防止教室を主催・企画をしていただきましたライオンズクラブのみなさまと関係者のみなさまには、このような機会を作っていただいたことを心より感謝申し上げます。

人権ポスターより ◇ みんなで笑顔あふれる白檀中学校を！◇

文化祭展示部門から人権ポスターの作品を3枚ピックアップし、全校朝礼で紹介しました。

○「心の傷は削除できない」(1年生徒作品)

人間関係の悩みや心の傷のほとんどは、言葉によるものかと思います。自分が言われて嫌な言葉は、人に対しても言わない心がけが大切かと感じます。心の傷は、PCみたいに簡単にリセットできないですね。

○「幸せの種をまこう」(1年生徒作品)

先ほどの続きになりますが、言葉は生産工場みたいなものです。幸せになるような言葉を発したら、まわりは明るく平和になります。反対に人を不幸にするような言葉は、心を曇らせ、争いを生みます。

○「ありがとうは笑顔を生み出す」(3年生徒作品)

「ありがとう」と「ごめんなさい」。この言葉は、魔法の言葉だと思います。これを素直に伝えられたら、遠回りせず解決することはたくさんあります。私も、日々の「ありがとう」を言葉にすることを心がけたいと感じています。

